

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原 誠

1. 授業の概要

本講義はスポーツ健康科学課程スポーツ指導者養成コースのコース必修科目、スポーツキャリア開発コースのコース選択科目として位置づけられている。将来、スポーツに関連する領域で活躍することが期待される本課程の学生にとって、社会における多様なスポーツ領域について、その現状を把握し、マネジメントの観点から考究することは極めて重要なこととなる。

上述の視座に立ち、本授業ではスポーツマネジメントの観点から国のスポーツ政策や地方自治体のスポーツ行政について、また、近年、参加者が増加している民間スポーツクラブについて取り上げている。

具体的内容としては、スポーツマネジメントの意味や意義、スポーツを取り巻く社会状況、日本のスポーツ政策に影響を及ぼしている欧州のスポーツ政策、それを受けての日本のスポーツ政策、その中でも現在の政策の基本方針を示した「スポーツ振興基本計画」について、さらに「スポーツ振興基本計画」の中でその育成が目指されている総合型地域スポーツクラブについて、欧州の状況や日本の現状等について取り上げている。また、国の政策と関連しながら展開される地方自治体のスポーツ施策や一般住民のスポーツ実施に関係するスポーツ環境等について取り上げている。その際、受講生にとって身近な例となる、愛媛県や松山市の状況を紹介しながら認識を深めるよう促している。さらに、地域住民のスポーツ実施を支える公共スポーツ施設や民間スポーツクラブについてマネジメントの観点から概観している。

今学期は第8週目の授業を公開した。授業内容は国の行政機構、文部科学省行政機構、地方教育行政、教育委員会等についてスポーツとの関連の中で扱った。さらに、松山市の第5次総合計画・基本計画に示さ

れているスポーツ関連の計画内容等について概説した。また、松山市が具体的に展開している体育・スポーツ行事の実情や、松山市の公共スポーツ施設の実態、松山市公共施設案内・予約システム等について、受講生がどの程度それらを把握しているかを尋ねながら、スポーツ施策展開の重要性について考えた。公共施設案内・予約システムについては、インターネットを活用して松山市のホームページからアクセスし、そのシステム内容を確認した。この授業については内容を盛り込みすぎて詳細部分についての説明が不十分であったのではないかと反省している。

成績評価については、中間および期末に行う試験の成績に基づき行っている。現在は試験の結果のみで評価を行っているが、後述するように、遅刻や欠席をする者が少なからずいる状況を勘案すると、授業への取り組みに対する要素も評価に加味する必要があるのではないかと考えている。さらに試験の結果、理解の程度が不十分な者については、レポートの提出を求めているが、最終授業日から数日後に成績評価の提出締め切り日が設定されており、対応に苦慮している。

2. アンケート調査の概要

質問紙によるアンケートを最終授業後に実施している。内容としては授業に対する各自の取り組み状況の振り返り、授業内容や理解の程度、授業方法、授業環境、授業全般についての感想を自由記述で回答するよう求めている。結果の概要は以下になる。

1) 授業に対する取り組み（受講生）

受講生 15 名のうち、全ての授業に出席した者は一人もいない。欠席扱いにはならないものの介護等体験で出席できない者や、金曜日の授業ということで、運動部の

試合の都合で欠席する者がいるなどして、全員が揃うことが一度もなかったのは授業を担当して初めてである。やむを得ない欠席等もあるが、授業には毎回出席するという基本的姿勢を貫くよう強く求めたい。また、遅刻についても、遅刻者がいなかったのは全授業中、僅かに3回であり、遅刻をすることに対して罪悪感を抱かない者がいるようにも見受けられる。注意を喚起することも行ったが、なかなか長続きしない。アンケートにも「遅刻が多かった」、「遅刻や欠席をしてしまった」等の記述が多くみられる。しかし、授業には「一生懸命取り組んだ」、あるいは、「授業はまじめに受けた…」等の記述もあり、授業に臨めば真剣に受講していることがうかがえた。

また、授業時に十分説明を尽くせなかったことについては、帰宅後、資料を見直すよう指示していたが、「授業以外での学習など、資料を見直したりはしなかった」という反省を記述する者もいた。

2) 授業内容や理解の程度

この授業は様々なスポーツ領域について、その実情や問題点等をマネジメントの観点から検討するものであり、内容が多岐にわたっている。個々の受講生もその関心は多様であり、アンケートにも、「総合型やスポーツクラブの項目については興味をもてた」、あるいは、「フィットネスクラブの細かいことや、今までの社会背景からスポーツをみることでよかった」、「施設の勉強をすることによって、松山市、愛媛県の体育館はどうなのだろうと、興味を持つことができた」などの記述がみられた。理解の程度については、「内容もレベルもよく、理解できたと思う」、あるいは「授業の内容やレベルは私にとっては丁度良く、理解しやすかった」等の記述がある半面、「前半、ヨーロッパについては少しむずかしかった」、あるいは「産業(スポーツ産業)などのところが少しわかりにくかった」という指摘もあった。理解を深めるためには、もう少し時間をかけて説明することが必要となるのかもしれない。

3) 授業方法

本講義では毎回、授業内容に関する資料

を配布している。この資料については授業外の時間にも見直すよう指示している。

基本的には資料と板書を使用しての講義形式の授業を実施している。ヨーロッパや日本の総合型地域スポーツクラブについてはビデオによる説明を加えている。また今回はインターネットの閲覧による情報提供も行った。機器の設定・操作等に不慣れなため若干手間取り、無駄な時間を使ってしまったこともあった。

アンケートには、「毎回板書にまとめてくれたのでよかった」、あるいは「ビデオを見たのは、理解しやすくて良かった」、「プリント形式だったので、手元に資料があって内容が理解しやすかった」などの記述があり、概ね肯定的に受け入れられていたように思う。しかし、「プリントがたくさんあったので、めんどろだった...」、あるいは「もう少し、ビデオやディスカッションなどもとり入れてほしかった」等の要望も出されていた。今後、検討することが必要となる。

4) 授業環境について

改修工事も終了し、教室の環境も整えられたため、特に問題等の指摘はなかった。

5) 授業全般について

アンケートには、「もっと、一生懸命、授業に取り組めばよかった」という反省や、「商業スポーツ、地域スポーツなど、様々な視点から“スポーツ”について知ることができてよかった。前よりも、とても興味をもてるようになった」、「将来のことを考えると、興味深い内容だった」等の記述があった。多様なスポーツ状況について理解が深まるよう、今後とも取り組みたい。

3. まとめ

今回の授業に関して、受講生自身も認めているが、欠席や遅刻が多い状況にある。出席を評価の対象とはしないことになっているが、基本的な授業への取り組み状況として評価する際に考慮すべきではないかと思う。受講生の授業に対する真剣な取り組みを求めたい。授業内容、授業方法については、授業内容を精選し、受講生の理解の程度が高まるよう配慮していきたい。